

佐藤真紀学習会アンケートまとめ

50名の参加 内20名のアンケートより

年齢；10歳代（0）・20歳代（0）・30歳代（1）・40歳代（3）・50歳代（11）
60歳代（1）・70歳代以上（1）、記載なし（3）

職業；医療関係者（9）・その他（4）（教員2、労組専従1、記載なし1）、記載なし（7）

1. 本日の学習会について

- （1）理解が深まり非常によかった（18） （2）まあまあよかった（1）
（3）期待したほどではなかった（0）、 記載なし（1）

2. 本日の学習会は何でお知りになりましたか？

- （1）案内チラシ（12） （2）知人の紹介（6） （3）新聞（0）
（4）SNS（メール、フェイスブックなど）（3）
（5）その他（医労連1、記載なし1）、 記載なし（1）（複数回答あり）

3. 本日の佐藤真紀学習会について、特に印象に残った事や感想がありましたらお書きください

- ・現地に根をおろして、危険を顧みず頑張っておられる佐藤さんのお話には切迫感と説得力があり、中東の情勢が改めてよく理解できました。
子どもたちの絵や写真、動画を駆使してのお話でしたので、中学生の子どもも理解しやすかったと思います。平和が当たり前になっている（平和ボケした！）我が子には刺激的な講演でしたが、社会を考える契機になってくれる事と、今回の学習会に心から感謝申し上げます。（子どもさん2名と参加された方）
- ・新聞等で見聞きする内容を、映像とともに知ることができて、紛争地にも人々の暮らしがあるのを実感しました。同じ時代を生きている様々な人々がいるのを実感しました。
民間ボランティアの方々の頑張りに心を動かされました。
- ・戦争・争いがあるから、いつまでたっても難民がなくなる。誰だって自分が生まれ育った場所で生活したいと思っている。好きで難民になっているわけではない。
戦争は環境破壊もおこす。無関心にならないよう行動したいと思いました。
- ・JIM-NETの動きを詳しく知ることができました。すばらしい活動だと思いました。こういう形が広がればよいですし、また広報がとても大切だと思っています。
マイクが少々音量低く残念でした。
- ・目をそむけてはいけない。関心を持ち続けること。動くことの必要性を感じました。
- ・イラクやシリアで暮らす人々の気持ち、難民の道を選ぶリアルな状況を教えていただきました。現地の人でも生活が大変なところで、人道支援、病気の子どもの支援をされていることに頭が下がる思いです。
- ・イラクの現状と医療支援の限界そして人道支援に対するドイツと日本の格差
- ・戦争のない世の中をつくる必要性を再認識しました。
- ・何の罪もない子ども達が苦しんでいる様子を見て涙がでた。1日でも早く戦争のない世界になってほしい。このような佐藤さんの講演を各地でもらいたい。
- ・シリア紛争の原因の真実と医療支援の大切さ(子どもたちのエピソードから)
- ・現場の生の声を、非常に事細かに教えていただき、とても参考になりました。
- ・日本人の倫理観が特に欠如していることを感じました。現実をみることを、しっかりとしていきたい。
- ・絵と映像に非常に感銘しました。
- ・現地の子どもの様子や絵。子どもが戦争の絵を描くという現実
- ・日本にも難民がいる！（福島からの避難者）という事実にはショック。そういう認識に立ってなかった。
戦争は単に殺し殺されるものではなく、コミュニティ・医療、あらゆるものが破壊されるものだと改めて感じた。
- ・JIM-NETの活動について理解が深まった。私にできることについては協力していきたい。

4. この学習会は“九条医療者の会かごしま”と“県医療労働組合連合会”で準備いたしました。それぞれの団体に対して、ご意見がありましたらお書きください。

- ・これからも共同して、九条を守るとりくみをしてください。
- ・SNSをもっと使っていきべきと思います。